



### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

○新設教科「社会創造科」の実践を重ね、内容の見直し等を行った。

①社会創造科の設計（カリキュラムの内容構成の工夫）

ア 社会創造科について

当校園では、「持続可能な社会を創り上げる資質・能力」をはぐくむには、それ相応の学習や活動の場が必要と考えて、社会創造科を新しい教科として設定した。この教科は、持続可能性の視点から物事や事象について考え、身近な地域をフィールドにして、身の回りの異年齢の人や地域の様々な立場の人と共に実践的で探究的に学ぶことを通して、資質・能力をはぐくむことをねらっている。

イ 社会創造科の目標

身の回りや地域の人と深くかかわりながら、「持続可能な社会の創造」の視点に立って、実践的かつ探究的に学習・活動をすることを通して、「自己を推進すること」「相互に交流すること」「新たに開発すること」という三つの資質・能力をはぐくむとともに、身の回りや地域に対する認識を深め、これからの社会を創り上げる態度を育てる。

ウ 社会創造科の学習内容

・学習内容Ⅰ 持続可能な社会を創り上げるための重要概念

当校園のこれまでの実践を通して子供が獲得してきた認識をまとめ、学習内容の見直しを図った。その際、国立教育政策研究所が示す六つの「持続可能な社会づくり」の構成概念（多様性、相互性、有限性、公平性、連携性、責任性）を参考にし、当校園の実践と重なった有限性、多様性、相互性、連携性、責任性の視点から学習内容Ⅰとして設定した。なお、これは、第1次研究の「持続可能な社会に関する認識・態度」とも重なる。

・学習内容Ⅱ 持続可能な社会を創り上げる活動に関する技能

社会創造科では、「自己を推進すること」「相互に交流すること」「新たに開発すること」という三つの資質・能力をはぐくむことを目標としている。そこで、三つの資質・能力の12の観点と照らし合わせて、これら三つの資質・能力を働かせる時に、身に付けられる技能を学習内容Ⅱとして設定した。その際、第1次研究で用いた「技法・技能」も参考にした。

以上2点を踏まえて社会創造科の学習内容を次のように設定した。

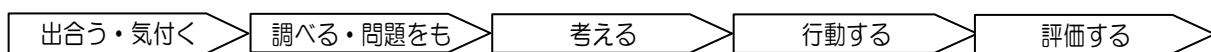
Ⅰ 持続可能な社会を創り上げるための重要概念	<p>A 人を取り巻く環境（自然・文化・社会・経済等）に関わる概念</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有限性<sup>*1</sup>の視点からとらえる意味</li> <li>・多様性<sup>*2</sup>の視点からとらえる意味</li> <li>・相互性<sup>*3</sup>の視点からとらえる意味 等</li> </ul> <p><sup>*1</sup>自然・文化・社会・経済は限りある事物から成り立っている  <sup>*2</sup>自然・文化・社会・経済は多種多様な事物から成り立ち、多種多様な現象が起きている  <sup>*3</sup>自然・文化・社会・経済は互いに働き掛け合っている</p> <p>B 人（集団・地域・社会・国など）の意思や行動に関する概念</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携性<sup>*4</sup>の視点からとらえる意味</li> <li>・責任性<sup>*5</sup>の視点からとらえる意味 等</li> </ul> <p><sup>*4</sup>持続可能な社会では多様な主体が力を合わせている  <sup>*5</sup>持続可能な社会では多様な主体がよりよい社会づくりに責任をもち、それを果たしている</p>
Ⅱ 持続可能な社会を創り上げる活動に関わる技能	<p>A 「自己を推進すること」に関わる技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己評価・振り返りの仕方、目標設定の仕方、計画立案の仕方 等</li> </ul> <p>B 「相互に交流すること」に関わる技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者理解の仕方、目標を共に設定しビジョンを共有する方法、話し合いの仕方、アンケートの取り方 等</li> </ul> <p>C 「新たに創造すること」に関わる技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の把握・分析の仕方、試行修正の仕方や論理的思考の仕方、創造的思考の仕方、プレゼンテーションの仕方 等</li> </ul>

なお、これらを社会創造科の学習指導要領にも反映させ、改訂も行った。

## エ 社会創造科の指導方法

- 幼小中一貫教育の中で，五つのステージを基に，系統的に指導する。
- 持続可能な地域の有り様を思い描きながら仲間や地域の大人と手を携え，様々な考えや方法で地域の問題の解決に向けて取り組む学習や活動を取り入れる。
- 下図のような「問題解決のプロセスモデル」を基に，実践的かつ探究的な学習・活動を通して指導に当たる。

※このプロセスは段階的に進行するとは限らず，前の過程に戻って進むこともある。



## オ 社会創造科の評価方法

社会創造科の評価では，子供が資質・能力を働かせている様相や学習内容を獲得した姿を見とるため，定量的な評価ではなく，質的な評価がふさわしい。そこで，当校園では主にポートフォリオによる評価を行ってきた。

学習指導要領

# 社会創造科編

平成27年10月30日

新潟大学教育学部附属長岡校園

---

本報告書に記載されている内容は、学校教育法施行規則第79条において準用する第55条の規定に基づき、教育課程の改善のために文部科学大臣の指定を受けて実施した実証的研究です。

したがって、この研究内容のすべてが直ちに一般の学校における教育課程の編成・実施に適用できる性格のものでないことに留意してお読みください。

## 「社会創造科」学習指導要領【改訂版】

### 第1 目標

身の回りや地域の人と深くかかわりながら、持続可能な社会の創造の視点に立って、実践的・探究的に活動・学習をすることを通して、「自己を推進すること」「相互に交流すること」「新たに開発すること」という三つの資質・能力をはぐくむとともに、身の回りや地域に対する認識を深め、これからの社会を主体的に創り上げる態度を育てる。

### 第2 内容

実践的・探究的に活動・学習することを通して、習得・活用する学習内容を以下のように設定する。

#### I 持続可能な社会を創り上げるための重要概念

##### A 人を取り巻く環境（自然・文化・社会・経済等）に関わる概念

- ・有限性の視点からとらえる意味
- ・多様性の視点からとらえる意味
- ・相互性の視点からとらえる意味 等

##### B 人（集団・地域・社会・国等）の意思や行動に関わる概念

- ・連携性の視点からとらえる意味
- ・責任性の視点からとらえる意味 等

#### II 持続可能な社会を創り上げる活動に関わる技能

##### A 「自己を推進すること」に関わる技能

##### B 「相互に交流すること」に関わる技能

##### C 「新たに開発すること」に関わる技能

### 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

#### 1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 全体計画及び年間指導計画の作成に当たっては、学校における全教育活動との関連の下に、学習内容やはぐくむ資質・能力、学習活動、指導方法や指導体制、学習の評価の計画などを示すこと。
- (2) 学習内容は、一つの単元で全てを網羅するのではなく、年間の単元配列の中で全てを網羅できるよう、計画すること。
- (3) はぐくむ資質・能力についても、単元ごとに重点を置く資質・能力を定めること。単元ごとに軽重をつけながら年間を見通してはぐくむことができるよう、計画すること。
- (4) 身の回りや地域との接点をもちつつ、多様な人々となつながりをもつことができるような指導計画を立てることで、「社会に開かれた教育課程」の実現に努めること。
- (5) 指導の基盤とする問題解決のプロセスを描き、各プロセスに子供が働かせると期待される資質・能力を明確にして、そのための具体的な活動を適切に位置付けて計画を作成すること。

なお、問題解決のプロセスは以下の過程とする。

「出合う・気付く」→「調べる・問題をもつ」→「考える」→「行動する」→「評価する」

- (6) 各プロセスではぐくむ資質・能力及び学習内容、そのための活動の関係を明確にすること。
- (7) 各学校においては、学年や年齢の区分によって、学習の母体を定めること。その際、異校種同士や異学年同士による合同授業や、乗り入れ指導などの効果が期待できる場面を位置付けるように検討すること。

#### 2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) 各学校において定める学年や年齢の区分によって、学習内容の具体を定めること。
- (2) 地域の実態を踏まえ、持続可能な社会の創造の視点の獲得が見込めるテーマを設定して、教材及び題材をつくり、社会参画の意識を高めること。
- (3) 問題解決のプロセスにおいては、他者と協働して問題を解決し、新たな価値を生み出していく学習活動が行われるようにすること。その際、身近な地域を含めた社会とのつながりの中で、様々な立場の人と協働して取り組む活動を位置付けること。
- (4) 教師の意図、子供の願い、地域の人々の期待等を総合的に考えて指導計画を作成し実践するとともに、地域や子供の実態に応じて実践を修正すること。

※色のついた部分は、「教育課程企画特別部会における論点整理について（報告）」と重なる箇所を示す。

単元の題材例

第2ステージ	(小学1年合同)「いっしょにあそんでひろがるなかま」	
	(小学1年)「つくって あそんで なかよしに ～ ようこそ『なかよし楽しいランド』へ～」	
	(小学2年)「 町たんけんに行こうパート1」	
第3ステージ	(小学3年)楽しもう百年の森	
	(小学4年)栖吉川の今と昔	
第4ステージ	(小学5年)トキが暮らせる自然環境を目指して	

	<p>(小学5年)長岡野菜のこれからを考えよう</p>	
	<p>(小学6年)考えよう 私たちの地域 長岡のこれから</p>	
	<p>(小学6年)山古志の人たちの生き方から自分たちの生き方を考えよう</p>	
	<p>(中学1年)「考えよう わたしたちの地域 長岡のこれから一目指そう 子育てNo.1のまち 今の私にできることー」</p>	

○グリーンカーテンへの取り組み

中高学年の児童が中心に校舎のグリーンカーテンに取り組んだ。その結果、新潟キッズプロジェクトのグリーンカーテンコンテストで、新潟県地球温暖化防止活動推進センター賞を受賞した。



(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）